

## 彦根城博物館所蔵『今昔物語』巻十九の本文の位置づけ

中 根 千 絵

### はじめに

論者は、『説林』五三号において、彦根城博物館所蔵『今昔物語』（全巻、表紙の題は『今昔物語』と書いてあるが、内題には『今昔物語集』とある。）の紹介を行ったが、その際、本の空白部分の分析、流布本系共通脱文の分析から、彦根城博物館所蔵『今昔物語』は、内閣文庫本Bに近い流布本系の本であり、内閣文庫本Bより良い本であろうと論じた<sup>1)</sup>。しかし、その位置づけが正しいかどうかは、諸本との一語一語の比較を経て、初めて、立証されるものである。

巻一については、先に論集で分析を行い、彦根城博物館本は内閣文庫本Bとのみ一致する箇所が多く、これは、『説林』五三号で論じたのと同じ傾向であるが、旧日本古典文学大系の底本である東大本甲や東大本、野村本とのみ一致する箇所もあり、彦根城博物館所蔵『今昔物語』は、流布本系諸本（内閣文庫本ABC、東大本乙）と古本系諸本（東大本甲、東大本、野村本）の間の状態を有する希有な本である<sup>2)</sup>ことを述べた。巻二、巻五、巻七、巻九の場合は、鈴鹿本という原本に近い本が残っているせい<sup>3)</sup>か、古態を残すとされる東大本甲、東大本、野村本と一致する箇所は非常に少ないという結果が得られた。但し、巻五、巻七では全体として、流布本系の諸本と表記が一致するにも関わらず、固有名詞等については、古本系諸本に依っており、これは巻四と同じである<sup>4)</sup>。巻三・巻六・巻十では、特に、野村本が流布本系と古本系との狭間で揺れている様を見てとることができた。また、様々な要件から、流布本系は、校訂

本文を目指した書物群ではなかったかと推測した。但し、彦根本のように、中間的な表記を有する書物の場合には、いまだ、そのどちらとも見定めがたいとし、今後、さらに、巻ごとの分析を続け、彦根本の性格を見極めると共に、古態本と流布本の総合的な分析を行っていきたいとした。<sup>5)</sup>巻四の場合に顕著な傾向として現れるのは、古本系との一致度が高く、内閣文庫本Bとの一致度は低いということである。これまで、彦根城博物館本は古態本と流布本の中間的な本として位置づけてきたが、巻四にいたって、古態本の表記を有することが判明したことにより、改めて、彦根本の位置づけを考えてみなければならぬこととなった。<sup>6)</sup>また、巻十一・巻十二では内閣文庫本Bにおいて、出典等による補入がある部分については、その表現は一致しない。こうしたことから、彦根城博物館本は、内閣文庫本Bより前に成立した写本である可能性が高いと考えた。<sup>7)</sup>巻十二の分析においてはさらに、内閣文庫本B、Cおよび野村本は校訂本文を目指した書物であることを明らかとした。また、巻十二においては、彦根城博物館本のみが最も古い鈴鹿本の表記の一部を残していることも指摘した。<sup>8)</sup>巻十三では、古態を残すとされる東大本甲、東北大本、実践女子大本、國學院大本と一致する箇所は多くないという結果が得られた一方、B本のみと重なる箇所も見られなかった。代わりに、東大本乙が古本系と表現が一致する場合、流布本系と表現が一致する場合の両方において、彦根本と一致する箇所が多いことが認められた。両本の表現の全てが一致するわけではないので、直接の書承関係があるとはいえないものの、彦根本が古本と同系統の本文を引き写した可能性、あるいは、その逆の可能性を指摘した。また、固有名詞について、底本である東大本甲では、「欠驗記ニ依テ補フ」という朱傍があり、古本系とされる実践女子大本、國學院大本は、同じ固有名詞を記しているが、流布本系の乙本、A本、B本、C本、また、彦根本も、欠を補わず、□としている。このことから、古本系においても校訂がなされないわけではないことが明らかとなった。<sup>9)</sup>巻十四においても古本系とされる実践女子大本、國學院大本、野村本が校訂本文を目指した本であることを指摘した。<sup>10)</sup>巻十五の本文の異同からは、彦根城博物館本が古態本と流布本の両本の系統を見ることができると仮定し、古語としての漢字の表記には忠実でありながらも、順序の入れ替えのような明らかな誤謬については、訂正するという意識が垣間見られることを指摘した。<sup>11)</sup>巻十

六では、彦根城博物館本はB本と乙本のいずれかの表記にほぼ合致し、古態本系の欠字部分のほとんどが流布本系では踏襲されず、欠字をなくして、意味合いが通じるような表現に変更されている様が見てとれた<sup>(15)</sup>。

巻十七では、彦根城博物館本の表記が底本や古態本系と同じ表記のところ、内閣文庫本Bが写し間違つて異なった表記になっている例がしばしば見られ、内閣文庫本Bが彦根城博物館本を写して出来上がった本であることが明らかとなった<sup>(16)</sup>。以前に、巻十五では、彦根城博物館本が古態本と流布本の両本の系統を見ることができると仮定し、古語としての漢字の表記には忠実でありながらも、順序の入れ替えのような明らかな誤謬については、訂正するという意識があったと考察し<sup>(17)</sup>、巻十六の場合には、流布本との一致度の高さからみて、流布本しか見ていない可能性も考え得るとして、巻ごとに見ている本が異なるかのような論述を行ってきたが、巻十七においては、鈴鹿本（京都大学蔵本）という原本に近い本が残っていることから、これまでの一見、矛盾するかのような現象の謎を解く例証が見つかり、古態本系と流布本系の書写関係の中で彦根博物館本がどこに位置するかを見出すことができた。これまで、彦根城博物館本は古態本系と流布本系の間にある本と考えてきたが、巻十七の表記の諸本の違いを見ると、それは、彦根城博物館本が古態本系統の本を引き写しながらも、自らの校訂の方針によって変更を加えた結果、流布本の性格と近いものとなったように思われる。また、底本の字を読み間違つた箇所について、諸本を総合的に分析すると、次のようなことがいえるように思われる。それは、実践女子大本と國學院本の系統の古態本から、その表記は彦根城博物館本に継承され、その後、彦根城博物館本から内閣文庫本Bへ、別系統の古態本（東大本甲に近い本）を引き写した東大本乙から内閣文庫本ACの系統へと書写されていったことである。書写の過程で、写し間違いや校訂があり、それによつて、古態本と流布本の表記が時折、交錯するようにみえることはあるものの、基本的には諸本の書写の過程は、右のようなものであつたと推測される。巻十三の分析時に実践女子大本と國學院本のような古態本も校訂しているのではないかということ指摘したが、ここでそのことがより明確となつた<sup>(18)</sup>。

巻十九についても引き続き、彦根城博物館所蔵『今昔物語』の本文を他の諸本と比較することにより、彦根博物館所

蔵『今昔物語』巻十九の位置づけを試みることにしたい。但し、諸本の収集は、いまだ、その途上にあり、旧日本古典文学大系『今昔物語集』の校異と頭注から必要な部分を抜き出す形で、諸本との比較を行うこととする。

### 彦根城博物館所蔵『今昔物語』巻十九の本文異同

凡例

一番上の段は旧日本古典文学大系のページと行、次の段は彦根城博物館所蔵本の本文、次の段は彦根城博物館所蔵本と同じ本文を持つ本の種類である。(但し、異体字などの字形が異なるものについてはこれに含め、その都度指摘した。)★印は彦根城博物館所蔵本独自の部分であり、その部分については諸本の例を示した。旧日本古典文学大系に載る考察は必要に応じて「」に入れて付した。

各本の略語は次の通りである。

底―旧日本古典文学大系『今昔物語集』の底本(東大本甲) 【旧日本古典文学大系『今昔物語集』の底本が現在の諸本のうちの古態本にあたりと考えられることから、底の字を使うことで、それが一見して明らかとなるようにした。】  
北―東大本 実―実践女子大本 国―國學院大本 野―野村本 以上、古本 乙―東大本乙 A―内閣文庫本A B―内閣文庫本B C―内閣文庫本C 以上流布本 彦―彦根城博物館所蔵本  
大―旧日本古典文学大系

巻十九目録

五三 鴨嶋(第六)

乙B

出家（第八） 底実国乙B

聞法師（第十四） 諸

太皇太后宮（第十八） 底実国乙B

師信遣言（第二三） B

祭都状僧（第二四） 底実国乙B

遁登恩語（第三一） 乙B

平維叙（第三二） 諸（彦底実国乙Bの維叙は変 偏を維は令の変 叙は舎に作る）

天狗（第三四） 乙ABC

第卅九（第三九） ABC

蜜来（四四） 諸（底の蜜は変 虫を丰に作る）

卷十九第一話

五四 4 藏人ノ頭ニテ近ノ少将ABC 「藏人ノ頭ニテ近ノ中将」乙「藏人ノ頭右近ノ少将」底実国大

「この二句をかく作るは、底本のみ。実・国二本は、「右」の右側に「ニテ」と記し、流布本は之を本文に入れ、却って「右」を脱する。」

7 此憎ム人ニ B

10 不顧シテ 「不顧ズシテ」大 底本「顧」の変は「虫」。

10 朝暮ニ 諸

11 肝碎キ心迷テ 乙ABC

12 有ケル 乙ABC

五五

- 14 極テ哀ニ 乙ABC  
 15 人无シト 乙ABC 「无人シト」底実国大  
 流布本は「人无シト」に作る。

- 16 无クテ 乙ABC

- 17 知サリケリ 乙ABC

- 1 然テ少将 底

- 1 只独リ登テ 乙ABC (乙ABCは獨)「只獨リ登リ」底実国大

- 4 勤ニ 諸

- 5 替リタラムト 乙ABC

- 10 女房立タル女人 乙ABC

- 11 有ケル 乙ABC

- 13 立テ 乙ABC

- 13 我ヲ尋子シ為ニ ★「我ヲ尋ネン為ニ」諸

- 14 行ク也ケリト思 B

- 17 四五歳許也シ 諸

- 17 露ノ 乙ABC

五六

- 2 成ニケル 乙ABC 「成ニケルハ」底大「成ニケレハ」実国

- 2 独鈷ナト遣タリケレハ 乙ABC (乙ABCは獨)「獨鈷ナドヲ遣タルケレバ」底実国大(底はルにりと朱傍)

- 2 物ノ氣現シ B

- 6 叡山ノ 乙ABC

卷十九第二話

12 七十二也

乙ABC

14 恐レ奉ルニ

AC「恐奉ルニ」乙B「恐セ奉ルニ」底実国大

15 語り傳へタルトヤ

乙ABC

五七 3 式部大輔

乙ABC

4 慈有テ

乙ABC

10 見ル

乙ABC

10 譬ム

ABC

10 悲ニテ心ニ不堪メ

乙A(乙Aはシテ)「悲ンテ心ニ不堪シテ」C「悲テ心ニ不堪シテ」B「悲ビ心ニ不

堪シテ」底実国大(ヒの下 かな一字分位空白)

「古本かく作る。上の「悲ノ心譬へム方无」をいいかえたもの。」

12 出来タルニ

乙ABC

14 下シケルヲ

乙ABC

15 此ノ鳥ノ

古本乙B大「此ノ鳥ヲ」AC

16 味ヤ美ノト

諸

五八

1 揃ラスルニ

底乙A

3 有ケル

B

3 ツラくト

諸大「ツフくト」実国

4 打巾ヒ下シケレハ

乙ABC「打巾ヒ打巾ヒ下シケレハ」実国大「打巾シ打巾シ下シケレハ」底(シをヒ

五九

- 5 事ノ外増タリト
- 5 守ツクくト
- 9 推ケルニ
- 10 去ニシ
- 11 耻メ思タル
- 12 外道ニ値テモ
- 13 貴フ也ケリ
- 15 □ト云
- 16 行ニ戸ヲ
- 17 事ナレハ
- 1 聖跡共ヲ
- 2 泣ク事无限リ
- 3 大嶽マテソ
- 3 置キ渡リタル
- 4 物哀ニ
- 6 思シ如ク

と朱訂)

乙ABC

諸大

乙ABC

乙ABC 「去レニシ」底実国大

A 「耻メ思フタル」C 「耻ヌ思タル」B 「耻シ思テ思タル」乙 「耻シヤ思タル」実国

「耻シカ思タル」底大

底本のみかく作る。

乙ABC 「外道ニモ値テモ」底実国大

乙ABC 「貴ク也ケリ」底実国大

「貴クアリケリ」の意か。

□ト云フ」大 諸本欠字。

乙ABC

諸「事ナルハ」底

諸(底実国の跡は変 旁は赤、底は跡と朱訂)

乙AB 「泣ク事无限シ」C 「泣ク事无限シ」底実国大 ナキニナクとよむも可。

諸

乙ABC

ABC 「物哀ニ」乙 「物哀レニ」底実国大 (惣に物イと傍書)

乙ABC





六二

- |     |    |    |    |                       |       |      |       |                 |        |                |         |               |           |                 |                 |     |      |      |            |
|-----|----|----|----|-----------------------|-------|------|-------|-----------------|--------|----------------|---------|---------------|-----------|-----------------|-----------------|-----|------|------|------------|
| 9   | 8  | 8  | 6  | 5                     | 4     | 4    | 4     | 2               | 2      | 17             | 16      | 14            | 14        | 13              | 13              | 13  | 12   | 10   |            |
| 立テリ | □ハ | □テ | □ハ | 揮ヒ与ヘテ                 | 功德トシテ | 其進ナム | 曳テ集タル | 也ト云ク            | 可為ハカムト | 過ヌ夏ノ           | 此クナ泣給ヒソ | 禁戒ヲ           | 成テ後ニ      | 破リテ弃テ           | 陰陽師ノ            | □レテ | 穢セサル | 音ヲ放テ | 然ナルソ       |
| 諸   | 諸大 | 諸大 | 諸大 | 実国乙B「揮ヒ与テ」AC「揮ニ与ヘテ」底大 | 乙ABC  | 乙ABC | 乙ABC  | ★「也ト□云ク」大 諸本欠字。 | 諸大     | 諸（諸は事）「過ヌ事ノ」底大 | A       | 実乙ABC（実の戒は異体） | 諸「成テ緩ニ」底大 | 乙ABC「破リテ奇テ」底実国大 | 乙ABC「□陰陽師ノ」底実国大 | 諸大  | 諸大   | 乙ABC | 流布本「然ナ、リ」大 |

六三

5	丸口下 <small>ハ</small>	乙BC (Cはシテ)
5	手迷シテ	ABC
5	卒都婆ノ	乙ABC
5	道ノ辺ニ	乙AC (乙ACは邊「道子邊ニ」底実国大
4	泣キ噎ヲシツレ	諸
1	音ヲ放テ叫フ	諸
1	男カナト	流布本底大「尊カナト」実国
1	<small>□</small> テハ	諸大
17	乗り進タルコソ	乙AC
17	道へ速ニ	乙ABC
17	不叶ハ	乙ABC
16	成り給ヘルハ	底ABC
15	坐メレハ	乙A「坐シレハ」C「坐メルハ」B「坐ヌレバ」実国大「坐タレハ」底 「底本の「坐タレバ」を実・国二本により訂。」
14	此獸ニ成ルニ	B (獸は変)
12	馬ニ非ヤ	乙ABC
12	給り返シ給り返シ	乙ABC
11	此ル熊ヲハ	B
10	<small>□</small> 馬ヨリ	諸大
9	暮セハ	乙ABC

六四

- |    |             |       |  |
|----|-------------|-------|--|
| 6  | 舎人男ニ        | 諸大    | 諸本かく作る。                                      |
| 7  | 少シ所ニ        | 諸大    | 諸本かく作る。                                      |
| 7  | □平カリ        | 諸大    |  |
| 8  | 翔り様ニ翔テ      | 乙ABC  | (翔の字体、Cを除く外は偏を半・半に 旁を羽の草体の変 月・月に作るもの多し)      |
| 9  | 涙テ          | 乙ABC  | (乙Aの涙は異体)                                    |
| 10 | 微妙シ         | 諸     | (底実国の微は異体の変 中部を山十子に作る)                       |
| 11 | 六條院ニ宮ニ      | 乙AC   | 「六條院ニ宮テ」B「六條ノ院ノ宮ニヤ」底実国大                      |
| 12 | 心モト无カリケリトナム | 実国乙AC | 「心セト无カリケリトナム」B「心モ□无カリケリトナム」底大                |
| 13 | 聞ケルハ        | 乙ABC  |  |
| 14 | 居タリケル音ハ     | 諸     |  |
| 14 | 渡冷ス         | 乙     |  |
| 15 | 颯ケハ         | 乙AB   |  |
| 15 | 立テ待ナルヘシ     | 乙ABC  | 「立ヲ待ナメヘシ」実国「立テ待ナメヘン」底(メにルインにシイと朱傍)「立テ待ナメベシ」大 |
| 16 | 心ヲ仕シ        | 乙AC   |  |
| 16 | 穢テ物ヲ        | 乙ABC  |  |
| 17 | 令落シ         | 乙ABC  |  |
| 1  | 受テ          | 乙ABC  | 「受ク」底実国大                                     |

卷十九第四話

六五

3 筑後守

5 不賤シ

10 極テ

13 隙無し

14 違フ者ナレハ

16 受スラムト

16 思ヘ候フ

2 令食進テム

3 物仕タレハ

3 美物ヲ備テ

5 人々ノ

9 散シカク

11 泥形ニヅ

11 踏ニ成ヅ

11 噉ミラカフ

12 犬共集リ来テ

14 知ナムト

15 知り

乙ABC 「令食進ラム」底実国大

乙ABC 「物ヲ仕タルハ」底大「物ヲ仕タレハ」実国

ABC

「人ノ」諸大 諸本かく作る。

乙ABC (乙のクは変)

乙ABC (乙ABCはシテ)

底乙AC (底はニをミと朱訂、底乙ACはシテ)

乙C

諸「犬共集リ来テ」底大

諸大

諸大 諸本かく作る。「智」の省文。

乙ABC

乙ABC

諸

乙ABC

ABC

諸

乙ABC 「思ユ候フウ」底実国大

- 六六
- 16 成ラムト 乙ABC 「成テムト」底実国大
- 16 思給フルニ AB
- 17 付サセ給ヒナシヤ 乙ABC
- 2 糸惜キ事ニコソ 諸「糸惜キ事ニゾ」底大
- 2 勸テ出家シメタランハ 乙ABC (乙はンはム)
- 4 院源君ナトテ 乙ABC
- 4 有レ 乙ABC 「有ナレ」底実国大
- 4 其前立テ 乙ABC
- 5 二人ノ人ヲ 乙ABC
- 5 尋行タル ABC
- 6 渡ラム 「渡タラム」諸大
- 7 宣ハム様 乙ABC
- 7 公ケ 諸
- 8 然ハ此ル次ニ 乙ABC 「然レハ此ル次ニ」実国 「然レバ此ル次ニ」底大
- 9 命モ 諸「命ヲ」C
- 10 令聞メ進ラムト 乙AC 「令聞メ進テムト」B 「令聞メ進ラムナド」底実国大
- 13 極テ善キ事也 諸「猛テ善キ事也」底大
- 諸本かく作る。「極」の異体字の行体と「猛」の行体とは相近い。
- 13 摂津國ニ行ヌ 乙ABC
- 14 午時ニ 乙ABC

六七  
 15 何テカ不参テ有ラムト 諸  
 16 何ニ々ニト ABC

1 立テ騒ク 乙ABC

2 居ヘハ 諸大 諸本かく作る。「已然形でいうべき所を未然形を以てした例と考えられる。」

3 参タラム 乙ABC

3 无心ナルヘシ ABC

3 浴セサセ給テ 乙ABC

4 返ラセ可給キトテ 乙ABC

6 云 乙ABC

9 始メツ 乙ABC 「始メツ、」底実国大

9 此ル事ヲセムト 乙ABC 「此ル事フム」国「此ル事ヲテム」底実大（底はテにナ敷と朱傍）原姿は「ナム」か。

12 事共忿キテ今 乙A 「事共忿ギニ于今」底実国大（底は共の下にノ朱傍）

14 此申シ上ケ 流布本「此ク申シ上ケ」古本大

15 構師トシ ABC 「講師トシ」乙「講師トシテ」底実国

15 来ル程ニヤハ有ケム 乙ABC 「来ル程ニヤ有ケム」底実国大

六八  
 1 不知 B

3 吉カラメ 乙ABC

4 説経ヲ 諸（底の経は変、糸偏を三水に作る）

六九

- |    |          |   |
|----|----------|---|
| 4  | 聞タル時ナレハ  | 乙ABC 「聞タル□ナレバ」底美国大                          |
| 11 | 甲冑ヲ      | 国ABC  |
| 11 | 三重四重圍テ   | 乙AB   |
| 11 | 鉅火ヲ      | 乙B  |
| 12 | 緩ニ无ク     | B   |
| 12 | 護ル       | 諸   |
| 12 | 繩ヲタニ     | 諸「蠅ヲダニ」大<br>「此の形容を理解し得ざる諸本「蠅」を「繩」に作るを、訂した。」 |
| 13 | 湯浴メ      | ABC   |
| 13 | 由ヲ云ヘハ    | 諸「由ヲ云ヘル」底大                                  |
| 13 | 令出家メシツ   | 乙AC   |
| 13 | 其間       | 乙ABC  |
| 15 | 甲冑弓箭     | ABC   |
| 2  | 勸メ得ツルカナト | 諸「勸メ得ツルナド」底大                                |
| 2  | 道心付テ     | 乙ABC  |
| 3  | 極テ       | 諸   |
| 4  | 云合スル様    | 乙AB 「云合ヌル様」C 「云ヒ合スル様」美国「云ヒ合ス様」底大            |
| 4  | 盛タラム     | B 「盛ニ蒞タラバ」底大「盛ニ蒞タラム」美国乙AC                   |
| 7  | 云程ニ      | 乙ABC  |
| 7  | 楽ヲ調ヘテ漸ク  | 美国乙AC (美国乙ACは樂)                             |



- |    |         |   |
|----|---------|---|
| 8  | 何ノ楽ソト   | 乙ABC (乙ABCは樂) 「何ソ樂ニカ」底実国 (底はソの左にノ朱補) 「何ゾノ樂ゾ」大               |
| 9  | 十人      | 底乙AC (底はノ朱補、底乙ACは樂) 「何ノ樂ニカ」B 「何ゾノ樂ニカ」実国大                    |
| 10 | 音ヲ以テ念佛ヲ | 乙ABC  |
| 11 | 金蓮華ヲ    | 諸大  |
| 11 | 寄り御ス    | 乙ABC  |
| 11 | 丸ヒ墮テ    | 諸「寄り御ヌ」底大   |
| 15 | 亦ノ日ノ暁ニ  | 乙ABC大「丸ヒ随テ」底実国 (墮歟と傍書)                                      |
| 70 | 1 猛悪ノ者モ | 古本「随」に作れるを、流布本により訂。<br>「亦ノ日ノ暁ニソ」諸 (Bのソは変、Cの亦は又) 「亦ノ日ヲ暁ニゾ」底大 |
|    |         | 乙ABC  |
|    | 卷十九第五話  |   |
| 70 | 5 兵部太輔ト | 乙ABC 「兵部ノ大輔□ト」底実国 (輔の下行末まで空格一字分を存す)                         |
| 6  | 心□マヒテ   | 乙ABC 「心□ニシテ」底実国大  |
| 6  | 指出モ     | 乙ABC  |
| 6  | 荒ハテ残タル  | 乙AC (彦の荒は異体) 「荒ハテ踐ヌル」B 「荒バレ残タル」底実国大                         |
| 7  | 成タルニ    | 乙B  |
| 9  | 世二人     | 諸大「世人」乙   |
| 11 | 打可解クモ   | B「打チ可解クモ」乙AC「打チ解クモ」底実国大                                     |

七二

- |    |          |                           |
|----|----------|---------------------------|
| 10 | 送ナル      | 乙 A B C 「想思可キ」底実国         |
| 10 | 消息ヲ上ケムト  | 乙 A B C 「消息ク上ゲムト」底実国大     |
| 10 | 何レカ      | 乙 A B C                   |
| 8  | 思ケレハ     | 諸大                        |
| 7  | 忝キ       | 乙 A B C 「忝テ」底実国大          |
| 7  | 无キニ      | 乙 A C                     |
| 6  | 不弊スナム    | 諸                         |
| 6  | □人ノ子     | 諸大                        |
| 5  | 微妙ナレハ    | 乙 A B C                   |
| 4  | 如此ニ      | 流布本(シテ)「如此クテ」実国「如此クシテ」諸大  |
| 4  | 令書ツ、     | 乙 A B C 「令書メツ、」実国「令書メツ」底大 |
| 1  | □人也      | 諸大                        |
| 17 | □ノ       | 諸大                        |
| 17 | 兄弟ニ侍ル    | 乙 A C                     |
| 14 | 明暮       | 乙 A B C                   |
| 13 | 思ヒ遣ヘシ    | 乙 A B C                   |
| 13 | 打次キテ失ケレハ | 実国乙 A B                   |
| 11 | 可想思キ     | 乙 A B C 「想思可キ」底実国         |
- 古本作るのは「慥」の譌。

七二

11	便モ	諸
11	過ケル間ニ	乙ABC「過ケル間ニ」底美国大
13	迎ヘケレハ	B「迎ヘケレド」諸大
15	有モ	乙ABC(乙ABCはトモ)
15	侘ト	乙AB「侘ト」古本C大 古本は変。
16	遣モ	乙ABC(乙ABCはドモ)
16	京ニ留リ	乙ABC
2	暮シテソ	乙ABC
3	入ヤ遅シト	乙ABC
3	忿キ行テ見ハ	ABC「忿キ行キ見レハ」美国乙「忿ギ行キ見レバ」底大
4	築地	諸大
5	喞ミム	乙AC「喞ニム」B「喞々ム」底美国大
5	荒ト	乙ABC(彦乙Bの荒は異体)
5	可見咲カリシ木共モ	ABC
6	切り失ニケリ	ABC
6	尋ルトモ	B
8	壊レ残タル	ABC
9	寝殿ノ柱ノ	B
9	倒レテ	諸
11	此ハ何タル人ノ	ABC

七三

- |    |          |  |
|----|----------|--|
| 14 | 宣フカトコソ   | 乙ABC「宣フカトテコソ」底実国大  |
| 14 | 給ヘカシ     | 古本乙B「給ヘシ」AC  |
| 16 | 二年計有テ    | ABC「二年許有テ」乙「二人許有テ」底実国大   |
| 17 | 皆散々ニ     | 美国乙AC「皆数々ニ」B「皆数々ニ」底<br>諸本により訂。   |
| 17 | 罷去候ヒシニ   | B  |
| 1  | 候ニキ      | 諸大   |
| 1  | 御シ、對モ    | 乙AC「御マ對モ」B「御ミ對モ」底（ミにシを朱重書し その左に、を朱補）「御シ對モ」実国大（シはミに近し）                      |
| 2  | 二三間計ノ    | 乙C   |
| 2  | □テ       | 諸大   |
| 3  | 罷下ラム     | 乙ABC「罷下ラガム」底実国大<br>「古本かく作る。もとづく本は、恐らく、ある時期に、「下ラム」が行末に位したこと<br>があったものであろう。」 |
| 3  | 但馬國ニ罷下ラム | ★「但馬ニ罷テ」底実大「但馬罷テ」国「但馬ニ」乙ABC  |
| 3  | 京ニハ      | 諸「京ニ」底大  |
| 3  | 候ハムスト    | 乙AC  |
| 5  | 奉レヒ      | 諸（諸はドモ）  |
| 5  | 无限リ泣々ク返ヌ | 乙B「无限リ泣々ク返ヌ」AC「无限クシテ泣々ク返ヌ」実国（字間をつめたり）<br>「无限クシテ返ヌ」底大                       |

- |    |           |   |
|----|-----------|---|
| 6  | 不值シテ      | 乙ABC 「不值スシテ」 実国 「不值ズシテハ」 底大   |
| 7  | 藁履ヲ       | 乙ABC  |
| 7  | 尋子行クト云ヘト  | ★ 「尋ネ行クト云ヘバ」 底実国大 「尋ネ行クト云ヘト」 乙 「尋ネ行クト云ヘトモ」<br>ABC                     |
| 8  | 藁         | 乙AB 「震」 C 「藁」 底実国大  |
| 9  | 思テ立寄タレハ   | 流布本 「藁」 正字。   |
| 9  | 爛ケハ       | 諸   |
| 12 | 手枕シ       | 乙ABC  |
| 12 | ナル        | B 「手枕シテ」 A 「手扰シテ」 乙C 「手抛シテ」<br>底実国大                                   |
| 13 | 矢ニタル      | 諸大  |
| 13 | 此ノ人       | 乙ABC  |
| 13 | 控テ        | 乙ABC  |
| 13 | ヒ         | 乙ABC 「 <input type="checkbox"/> 」 実国 「 <input type="checkbox"/> ニ」 底大 |
| 15 | スキマノ風モ    | 乙ABC 「スキマノ風モ」 実国 「スキマノ風モ」 底大<br>(風の百を血の異体にする)                         |
| 15 | モノニソアリケルト | ABC   |
| 16 | 其二テ       | ABC   |
| 17 | 御マシケルソ    | 実国乙AB 「御マシケルヲ」 底C大  |

七四

1 生テ返ルト

乙ABC

1 水エ

★「水エ」諸大 「諸本かく作るが、「水」の減面か。」

2 愛宕護ノ山ニ行テ

乙ABC

3 始ヌ

底実国

4 万葉集ト云フ

乙ABC 「万葉集ニモ云フ」実国 「万葉集ニトモ云フ」

底大 「底本かく作るは、「万葉集ニモ」といいかけた痕跡を示すものか。流布本「万葉集ト云フ文ニ」。この注記は、恐らく、万葉集に見られる古伝説を再構成して歌物語的性格を持つ本語が説話化したことを意味するものと思われるが、梅沢本は何故か「古今にかゝれたり」と記す。」

卷十九第六話

七四

8 母ヲ過スニ

乙AC

9 其妻産メ

B 「其ノ妻産シテ」乙AC 「其ノ産シテ」底実国大

「古本かく作る。「妻」と「産」とは、音相近き為、書写の際脱したものか。流布本は「其（ノ）妻産シテ」の如く正す。」

9 完食ヲナム難求得シ

ABC

10 為ルニ

乙ABC

10 思ヒ潦テ

乙AC

11 思故也

乙ABC 「思故ニ也」底実国大

12 美々

流布本「美々」大 「ミ」は「ミ」の譌か。然らば「美」

七五	14	忘猛ク	B (Bはシテ)
七五	13	射母成鹿	乙B
卷十九第七話			
7	7	勤メ行テナム	乙BC 「勅メ行テナム」A 「勤メ行テナム」底実国大
6	7	貴キ寺ニ行テ	ABC
1	6	此事ヲ思フテ	乙AC 「此ヲ思テ」B 「此事ヲ思フニ」実国 「此ヲ思フ」底大
1	1	夫ヲ戀	乙ABC
七五	1	射敏レヌルヲ	乙AC 「射敏シヌルヲ」底実国 B大
17	17	生タル鴨ノ	諸「出タル鴨ノ」底大 諸本かく作る。「行書の字体相似故に誤ったものであろう。」
16	16	此鳥	B
16	16	懸タ鳥リ	B
14	14	夜入テ	ABC
14	14	忿キ家ニ	乙ABC
13	13	近フ寄来タリ	乙ABC
12	12	所ナレハ	B 「所ナレ」諸大

の字音の全訓捨てがなとなる。」

諸(底のトは師の末画と合せるが如し)  
乙BC 「勅メ行テナム」A 「勤メ行テナム」底実国大  
「古本かく作るは、上字に引かれての増画か。」

七六

- 14 達リ 乙 A B C
- 15 眷属共 乙 A B C
- 16 □ト云フ 諸大
- 17 此鹿ヲ A B C 「此ノ鹿ヲ」実国乙「此ノ鹿ノ」底大
- 17 射ル 諸(底の射は変 身を舟に作る)
- 1 為ルニ 乙 A B C 「為ル」底実国大
- 3 道極タルニ 乙 A B C
- 8 此ク辞スル 乙 A B
- 9 不錯ニ A B C
- 10 此ノ男 底実国乙
- 10 打立シヲ 乙 A B C
- 11 大マチニ値 乙 A C 「大ニチニ値」B 「大マケニ値」底実国(マケにモチイと傍書) 「流布本の  
マチが原姿であらう。」
- 12 馬ヲ 乙 A C 「馬テ、」実「馬テ」底国 B 大(底はテの下に、朱補)
- 12 搔ル程ニ 乙 A B C 「搔□程ニ」底実国大
- 12 雁膀 流布本「鷹膀」大 「流布本が原姿であらう。」
- 13 有テ痛ヤト云ツ 乙 A B C 「有テ痛ヤト云ツ」実国「有テ痛ナド云ク」底大
- 14 忽ニ 実国乙 B
- 16 問フ 乙 A B C
- 17 汝ヲ今日ノ狩ノ役ヲ 乙 A B C



七七 17 許シテケン  
ABC「許シテヤシケン」乙「許シテケレ」底実国大  
七七 2 无クテ  
乙ABC  
2 行ヒテ  
乙ABC

卷十九第八話

七七 7 □ノト  
乙ABC「□ノ□ト」底実国大

8 傳へ教へケル  
乙ABC

9 木居へ並タル  
乙ABC

10 十ヲヲ  
乙ABC「十ヲヲ」底実国大

13 発テ  
諸(乙Aは發 B Cは発)

13 不被寝リケルニ  
乙ABC

14 土屋有リ  
乙AC「土屋有ル」B「墓屋有リ」底実国大

15 摘ナムト  
乙ABC

17 散々ニ遊ヒ去ヌ  
「散々ニ遊ヒ去ヌ」底実国C(底実国の遊は動用字)

七八 1 而ル間  
乙ABC

1 大秦  
諸大

1 数鳴リ  
諸大

2 恐シク思ユレハ  
実乙AC「恐シヲ思ユレハ」B「恐シク思ムレハ」国「恐シク思ユレ」底(レの下に

ハ朱補)

「底本のみかく作る。突き放した感動、詠歎を籠めた表現と取るべきか。」

- |    |         |  |
|----|---------|--|
| 2  | 騰       | 諸底大  |
| 2  | 熊ノ      | 乙ABC   |
| 4  | 身ニ      | 「下字、字書には、「騰」に作るを、諸本、底本の如く作るは、中世における通体と目される。(万葉集古写本の用字亦然り)。」            |
| 5  | 赤キ草ヲ    | 乙ABC   |
| 7  | 然ル      | 底実国B (底は革敷と朱傍)   |
| 8  | 取テモ     | 乙ABC   |
| 9  | 太郎子モ    | 諸大「諸本かく作るが、意不通。B本は「テ」に「クイ」と朱傍。しかし、クをテの如く書いた傍例は見られぬので、ウの古体「于」の変と見るべきか。」 |
| 11 | 穴極シノ熊ヤ  | 実国乙B大「太郎モ」AC「太郎子モ」底  |
| 11 | 居タル     | ABC「穴極シノ熊ヤ」乙「穴極シテ熊ヤ」底実国(底はテにキ敷と朱傍)「穴極ジキ態ヤ」大                            |
| 11 | 藪様ニ狗飼一人 | 「古本テに作るを訂。」  |
| 12 | 藪ヲ打ツ    | 諸大   |
| 12 | 折臥ト     | 乙ABC   |
| 14 | 放チ打合ツ   | 諸  |
| 14 | 飛行ク     | AB(Bの臥は変)  |
| 14 | □ノ      | AC   |
|    |         | 乙ABC   |
|    |         | 諸大   |

7	7	7	6	5	4	4	2	1	1	7九	16	16	14
隠レテ居タル	早シ高ク	松ノ木ナル	飛テ	悲テ	子共ハ皆	急キ寄テ	何クニ有ラムヤト	穴疎ト	何クニ有ラムヤト	二 郎子	□ テ	頸ハ骨ヲ	許ノ
乙 A B C	乙 A B	乙 A B C	乙 A B C	乙 A B C	乙 A B C	乙 A B C	乙 A B C	乙 A B C	B	乙 A B C 大 「二次郎子」 底実国 (底は次に衍を朱注)	諸大	乙 A B C	諸大
	「古本かく作るは、「草」の省文か。」							「流布本により訂。」		流布本により訂。			

卷十九第九話

八〇 開白ノ

8 愛敬

10 出立チ給フ

11 御□ノ

11 微妙ナリケル

12 硯ノ様ニ

14 筥ニ

15 硯ヤ有ルト

15 給ヒケレハ

16 微妙キ

17 此レヲ

10 □ル

12 疲レ

14 我年来

15 我カ今夜

15 思ツル様ニソ

15 明クルヤ遅ト

諸大

諸大 「諸本かく作るが、意不通。レがフの譌とすれば、「疲」は「仕」の借字と取れる。」

A B C

A B C

A C

乙 A C

底実国 B

諸

実国乙 A C

諸大

乙 A B C

乙 A B C

乙 A B C

乙 A B C

諸

諸 (底の微は変 微に作る)

「此ヲ」諸大「此ク」C 此に対して、の意。

八一 1 朝毎ニ

諸「朝母ニ」底大

「底本のみかく作るは、「毎」の省文か。或はまた「朝暮」の音通か。」

1 浄メスル程ニ

乙 A C

1 硯ノ極テ

諸

1 見ニ欲シク

乙 A C

5 微妙ナレハ

諸「微妙ナレ」底大

5 手裏ニ

乙 A B C

6 取り□シテ

「取□テ」大 諸本欠字。

8 何カニ成ラムスラムト

★「何カニ成ラムヌラムト」B「何カニ成ラム為ラムト」乙 A C「何が成ラム為ラムト」底実国大

8 思ヒケルニ

乙 A B C「思ヒケム」実国「思ヒケムニ」底大

12 悦

「ケム」は、文末の「ケム」に牽引されたもの。

13 何ニシタル事ソト

諸大「怖」A C

15 打破リ給ヒツルト

乙 A B C

16 喜ク忝ク

乙 A B C

17 カ、ハユク

諸 乙 A B C「カハ、ユク」底実国大（底実は、にイ无と傍注）

1 糸真シク

A B C

2 目暗レテ

乙 A B C

2 奇異ノ

諸大 原姿は「奇異ク」か。

八二

- 八三
- |    |                                 |                                      |
|----|---------------------------------|--------------------------------------|
| 3  | 知テヤ有ルト                          | 実国乙AC                                |
| 5  | 振々                              | 乙ABC 「振々リ」底実国「振々フ」大<br>古本「フ」を「リ」に誤る。 |
| 6  | 何ニト                             | 乙ABC                                 |
| 6  | □テ                              | 諸大                                   |
| 6  | 早ウ                              | 諸                                    |
| 7  | 立チ去ヌ                            | ABC                                  |
| 8  | 打破タルコソ                          | 乙ABC                                 |
| 10 | 忌々シキトテ                          | B                                    |
| 10 | 乳母ハタ可云キ様无シ底乙ABC大「乳母ハタラ可云キ様无シ」実国 |                                      |
| 12 | 乳母ノ家ニ                           | 諸                                    |
| 12 | 置タレト                            | 乙ABC                                 |
| 12 | 乳母                              | 乙ABC                                 |
| 12 | 人ノ車ヲ                            | 諸                                    |
| 14 | 狭キ也                             | 諸(底の狭は変 手偏に作る)                       |
| 17 | 参り訪ヒケリ                          | 乙ABC                                 |
| 2  | 臥ス                              | 乙ABC                                 |
| 3  | 上ニ聞驚テ                           | 乙ABC 「上ハ聞キ驚テ」底実国大                    |
| 4  | 温ミテ                             | 乙AC                                  |
| 4  | 苦ミ煩フト                           | 乙ABC                                 |

八五			八四		
13	盡セヌ	B「盡セス」乙AC「盡ヲセズ」底実国大	13	聞クニ付テモ	乙ABC「聞クニ付ニテモ」底実国大
12	男也カレ	乙ABC	12	此レヲ恠テ	乙ABC「此レヲ恠シテ」実国「此レヲ恠シキ」底大
2	御服ヲ	乙ABC	12	祖カ失タリトモ	乙BC
2	思ヒ奉ルト	乙ABC	15	聞テ	乙ABC「聞キ」底実国大
8	寝入タル様ニテ	乙ABC	12	此レヲ恠テ	乙ABC「此レヲ恠シテ」実国「此レヲ恠シキ」底大
5	甲斐无シ	諸	11	參ルヲ	諸大
4	思 <small>ヅ</small>	底流布本大（底流布本はシテ）	8	参ルヲ	乙ABC
3	息ノ下ニテ	乙ABC	5	寝入タル様ニテ	乙ABC
2	ワカレナリケリ	乙AC	4	甲斐无シ	諸
1	此ソ宣フ	乙A	3	息ノ下ニテ	乙ABC
9	上ノ	乙ABC	2	ワカレナリケリ	乙AC
9	開ヌト	乙BC「開メト」実国「開ヌト」底A大（実国底Aは聞に開敷と傍書）	1	此ソ宣フ	乙A
6	上ハ	大「上へ」実国	13	聞クニ付テモ	乙ABC「聞クニ付ニテモ」底実国大
5	思給ヘト	乙AC	9	上ノ	乙ABC

卷十九第十話

八六 4 睦マシキ

大 古本は日偏に作る。

6 祈禱スト

乙ABC 「祈禱スト」底実国大

7 然テ置タルヘキ事ニ

乙A

非ス

8 望ケルニ

流布本「望ケルニ」大

「古本の「望」は字類抄、ノの辞字「望」及びヤの疊字「野望」並びに名義抄の「庶望」の「望」に見られる字体「望」と近い。」

8 抜ケ落テ

諸

9 抜ル跡ノ

諸大「抜跡」実国

10 暖マリタレハ

B

10 齒白ク

諸大

10 上食ヒ合セラレテ

乙AC

13 面影ケ

乙ABC

14 弃テ

乙ABC 「弃テ、」実国「奇テ」底大

15 有リ

乙ABC

17 心ヤ得ナム

諸(Bのナは変)

17 弃テハ

諸

八七

1 臥ヲ

諸大「臥ヲ」C

1 竊出ニケリ

乙ABC 「竊ニ出ニケリ」実国「竊ニ出ニケル」底大



卷十九第十一話

3 法師ニ成テ

乙ABC

6 入道ニ

乙ABC 「入道ハ」底実国大

6 悲ク思ヒ侍ル也

乙ABC

7 鏡ノ如ク

乙ABC

8 坐シカレト

実国乙AC

9 居タリケルニ

乙ABC 「居タリケルヲ」底実国大

10 替ニハ

実国乙AC

10 疾ク腹止ケル

国乙ABC 「疾ゾ腹止ケル」底実大

12 行ヒテソ

乙AC

八七 信乃國

諸大 乙本は違う。

17 □ノ郡ニ□ノ

諸大

八八 浴シ可給シ

乙AC

2 結縁シ可奉シ

B 「結縁シ可来シ」乙AC 「結縁シ可来シト」底実国大

3 綾蘭笠ヲ

諸(底の綾は変 行人偏に作る)

4 白□ヲ

諸大

5 有ラム

乙AC

5 驚テ恠ムテ

乙ABC

7 替へ廻メ底ヲ

乙AC (乙ACはシテ)

卷十九第十二話

八九 行フ

8 □ノ

8 國ニ坂ト

11 人ノ云ニヤ有ラム

11 荅フル

11 僧此レヲ聞テ

7 掃除シ

乙ABC 「掃除シ」底実国大

8 日漸クニ

乙ABC

8 傾テ

諸大

9 云ツル

諸大

9 何事ソト

乙AB 「何事ルソト」C 「何事ヲト」底実国大

10 一人ノ有テ

乙ABC

11 音ヲ以テ

乙ABC

13 突テ折タレハ

ABC

14 来タル

乙ABC

15 同クハ我

乙ABC 「同ク我」底実国大

17 王藤大主ニコソ

諸「至有大主ニコソ」底大

17 有ヌレト

乙ABC

諸大「行テ」底 諸本により訂。

諸大

乙ABC 「國ニ□坂ト」底実国大

乙ABC

諸「荅フ」底大 「底本かく作るは、終止形の連体法か。」

乙ABC 「僧ヲ此ヲ聞テ」底実国大

九〇

6	6	5	5	1	1	1	1	16	15	15	14	14	13	12	12	12	12
御堂へ参テ	何ニカ	立チ来ル	屈ヲレハ	明ルヤ遅シト	思フ	何チモ行カメト	思ヒツレト	亘也	不参テハ	喜フ	集リ給フトハ	四大天皇	不侍フ	問ナレハ	明日	通ル音ノ云ク	希有也ト思ニ
乙ABC	乙ABC	乙ABC	諸大「屈レバ」AC	乙ABC	乙ABC	実国乙AC	乙AB	「事也」乙ABC「事ナリ」実国「事ナル」底大	諸	諸	ABC	乙ABC	乙B	乙ABC	乙ABC	「A・C両本の「者」は意改か。」	底実国乙B「通ル者ノ云ク」AC
																	「古本かく作るは、「僧」の捨てがな、ウを誤ったものであろう。」
																	諸「希有也ト思ヒ」底大

卷十九第十三話

- 7 念殊ノ
- 7 居タルハ
- 11 目ヲ押シ巾テ
- 14 僧思ハク
- 16 今始タル叟ニハ
- 9 云フ人有ケリ
- 5 身貧ナル
- 6 有ケル
- 7 朝ニ
- 7 浄メスルトテ
- 8 題ニテ
- 11 讀タレハ
- 11 我着タル
- 12 多ク
- 13 侍共
- 14 恠テ

諸大「念珠」C

諸「居タルハ」底大

諸

乙ABC

諸「今始タリ事ニハ」底大

乙ABC 「云フ人ノ有ケリ」底実国大

乙ABC

乙ABC

乙ABC

乙ABC

乙ABC

乙ABC (乙ABCは読)「讀タリレバ」底実国大

「古本かく作るのは、始め、「読タリ」といつて後「読タレバ」と直さんとした推移を示すものであろうか。」

乙ABC

古本乙B 「多ノ」AC

乙ABC

「恠ビテ」諸大

	15	迹ニナメリト	乙 A B
	15	早ウ	大
	15	□ ト云フ	諸大
	17	此ノ夏	★ 「此事」乙 A B C 「此ノ生ノ事」底実国大
九二	2	思ヒ不懸メ物ヲ	乙 A B C (乙 A B C はシテ)
	2	主ノ給ニ候ヘハ	A B C
	3	涙ニ噎テ	諸 (底実国の涙は変 渡に近し)
	3	令出テ	諸大
	3	戒ヲ授ケテ	乙 A B C
	5	其ハ	乙 A B C
	7	山寺ナトニコソ	A B C 「山寺ナドニコソハ」底実国乙大
	8	其色ヲ	B
	8	不見令サリケム	諸大 「このケムは、ケルの意。」
卷十九第十四話			
九二	12	即出家語	乙 A B C
	13	□ 郷ニ	諸大
	14	殺生ヲ以テ業トス	乙 A B C (A は敏) 「殺生ヲ以業ス」底実国大

「古本かく作るが、同趣の文脈においてすべて、トを有するのでかく補読すべきものであろう。」

九三

- |    |          |  |
|----|----------|--|
| 15 | 不折ル日ハ    | 乙ABC (乙の日は月に近し)  |
| 15 | 少コソ有ケレ   | 乙ABC   |
| 16 | 國ノ人モ     | 乙ABC (乙ABCは国) 「國ノ人ニ」底実国大<br>古本かく作る。このニは、…においての意。       |
| 17 | 有ケル      | 諸大 諸本かく作る。「有ケルニ」の意。                                    |
| 1  | 行ヒコソ侍ルメル | 乙ABC   |
| 2  | 行ソト云ハ    | 底乙ABC (底はソに重書シテフと朱訂)                                   |
| 2  | 供養スル     | 乙ABC 「養供スル」底実国大  |
| 2  | 熊サ       | 「古本かく作る。語順の倒錯の類例は次の如し。微妙↓妙微、流浪↓浪流。」                    |
| 2  | 為ル       | 「態ザ」諸大 「ザは「態」の捨てがな。」<br>流布本「為スル」古本                     |
| 3  | 去来ヤ      | 「古本かく作る。全訓捨てがなの例。」                                     |
| 4  | 抜セムスルニヤ  | 乙ABC   |
| 5  | 只歩ニ步寄テ   | 「抜ゼムスルニヤ」諸大<br>「諸本かく作る。この字は元来は「陵」「凌」と書くべきものの偏を取換えたもの。」 |
| 5  | 出来レハ     | B 「只歩ヒニ步寄テ」AC 「只歩ヒニ寄テ」乙「只歩ヒミ歩ヒ寄テ」実国「只歩ビシ<br>歩ヒ寄テ」底大    |
| 6  | 恐テ騒ク     | ABC  |
| 6  | 恐テ出ル     | ABC  |

- 九四
- 6 入レ  
乙ABC
- 7 草ノ靡タル  
乙AB (乙の草は艸)
- 8 思ユ計  
「思ム」国「思」乙「思ユ計」諸大
- 8 便无カリ  
乙
- 10 値ヌルナト恐テ  
乙AC
- 10 引キ被落ヌト  
AC「引テ被落レヌト」実国大「引キ被落スト」B「引被落ヌト」乙「引テ被落シヌ」底(シをレと朱訂し ト朱補)
- 12 人ナレモ  
「人ナレドモ」諸大
- 13 迎  
乙ABC
- 13 遂ニ  
乙ABC
- 14 哀ヒ給ヒテハ  
乙ABC「哀レ給ニテハ」国「哀ヒ給ニテハ」底実大
- 14 恤ミ不給シナム  
乙ABC
- 15 咎ヘ給ヒテムヤト  
乙ABC
- 15 何カ  
乙ABC
- 17 思カ如クニ  
乙ABC
- 17 悪シト不思レトモ  
乙ABC
- 2 亶也ト(脱)只今「事也ト」ト。(五位、此ヲ聞テ「然バ我が此ノ頭剃レ」ト云フ。講師「哀レニ貴キ事ニハ有レドモ、」只今「大

「只今俄ニ何テカ其ノ」

九四

の次の文は一枚とぶ。その一枚分は、卷十九第二十三話の最初の部分の文「今昔般若寺トク亦ノ日キ」までの文が挿入されている。

- |    |         |                    |
|----|---------|--------------------|
| 3  | 思ヌ夏ナラハ  | 乙ABC (乙ABCは事)      |
| 4  | 万ヲ招テ    | ABC                |
| 4  | 剃リ給ヘト   | 乙ABC               |
| 5  | 人ヲ      | 乙ABC               |
| 6  | 不當ヌ夏也   | 乙ABC (乙ABCは事)      |
| 7  | 此ル悪人ノ   | 乙ABC               |
| 7  | 俄ニ此ク    | 底実国B               |
| 7  | 出来ヌラムトテ | 乙AC                |
| 7  | 周ク      | B 「周章テ」 AC 「周テ」 諸大 |
| 8  | 郎等共ヲ聞テ  | B                  |
| 9  | 汝等ハ     | 乙ABC 「汝等」 底実国大     |
| 9  | 成ラムト為ルヲ | 乙ABC               |
| 10 | 妨ケムト為ルソ | 乙ABC               |



	九五		
12	令メ給ヘルソ	諸大	
12	託キ給ヒニケルコソ	乙AC	
13	切テハ	諸大	
15	有ナム	諸大	
1	阿弥陀佛ヲ	乙ABC	
2	野山ニナレ	諸「野山ニマレ」大	諸本かく作るが、ナをマに訂。
3	叩ヒ	諸大	諸本かく作る。「或は「叫」の異体「叫」の譌か。」
3	郎等共行カムト	ABC	
4	スルニコソ	B	
6	向タルマ、ニ行クノミ	B	「向タルマ、ニ行ノミ」AC「何タルマ、ニ行ノミ」
6	向日暮ニ	乙ABC	
8	超テ行カムトス	実国AB	「超行カムトス」底大「起テ行カムトス」乙C
8	草ヲ結ツ、	乙ABC	
9	物ハ有ル	乙ABC	
9	多ト	乙ABC	「多ヤト」実国「多カト」底大（カはややヤに近し）
10	腰ニ挟ニ	乙AC	「腰ニ挟ミ」B「腰ニ挟テ」底実国大
10	住持	乙ABC	
12	結ヒタル	諸大「結ヒヌル」B	諸本かく作る。

九六

- 14 叩レ居タリ
- 16 脊へ給へリト
- 17 叩へハ
- 2 七日有テ
- 2 見畢ヨ
- 3 取テ持タリキト
- 3 有リト
- 5 微妙ノ
- 6 泣キ悲ヒテ
- 6 蓮花ヲ
- 6 引キ隠サマシト
- 7 思ヒケレヒ
- 11 亘ス
- 11 □ノ
- 11 世ノ末ナレヒ
- 11 此貴亘モ

乙ABC

B

乙ABC

諸

諸「見畢ヌ」底大(ヌにヨと朱傍)

「底本のみかく作る。このヌはヌベシの意。この語法を理解し得ざる諸本は「見畢ヨ」に作る。」

実乙ABC

乙ABC

乙ABC

乙AB

AC

★「引モヤ隠サマシト」底実国「引モ隠サマシト」乙ABC

諸(諸はドモ)

乙ABC(乙ABCは事)

諸大

乙ABC「世ノ末ナルトモ」底実国大(底の末は未に近し 朱訂)

B(Bは事)

巻十九第十五話

九六 15 公任大納言出家籠居 大

長谷語第十五

本文欠

諸大も本文欠

標目の後、二行空白

巻十九第十六話

九七 1 顕基中納言出家受学 ABC大 (ABC大は學) 底実国乙は欠

真言語第十六

本文欠

諸大も本文欠

標目の後、二行空白

巻十九第十七話

九七 6 出家語 乙ABC

7 村上<sup>六十二代</sup>天皇ノ 「村上天皇ノ」乙ABC

8 齊院ニ御マス 乙B

8 可咲テノミ 乙ABC

9 有ル 乙ABC

九八

- 9 所无シト皆云ヒケル 乙ABC
- 10 臨マセ給ヒタレハ 乙ABC
- 11 打手不解ヌ 実乙BC
- 11 人モ无キ六十六代一條院天皇ノ 乙AB
- 13 明カリケルニ 乙B 「明ナリケルニ」古本AC大  
「乙・B二本が原姿か。」
- 16 前栽 底乙B (底Bの栽は変 木を禾に作る)  
諸
- 17 生ヒ繁タリ 諸大
- 17 □キ 諸大
- 1 □ヤカニ 諸大
- 1 遣水ノ音 諸
- 1 吹タレハ 諸
- 2 御簾ノ 諸「御簾」底大
- 2 薰ノ香 実国乙AC「薰香」B「薰ク香」底(薰と朱傍)「薰ク香」大  
「薰」の字音クンの擬音を表記しないもの全訓すがなと見るべきか。」
- 2 御隔子ハ 諸(彦底実国の隔は変 三水に作り朱傍)
- 2 被下タラムハ 乙ABC
- 3 御ル帳ノ裾ヲ B
- 4 御覽メ 乙ABC (乙ABCはシテ)
- 7 不為成ヌレハ 流布本「不為ズ成ヌレバ」古本大

九九

- |    |            |           |  |
|----|------------|-----------|--|
| 2  | 内ニ返リ参ヌ     | 諸         |  |
| 1  | 此様ノ        | 諸         |  |
| 17 | 手扣ニ        | 諸         |  |
| 17 | 醒サセ給ケレハ    | 乙ABC      | 「醒サセ給ハリケレハ」底実国「醒サセ給ヘリケレバ」大 古本を訂。       |
| 16 | 御不寝リケルニ    | 乙ABC      |  |
| 16 | 御物語ナトセサセ給テ | 諸         |  |
| 15 | 遊ヒメル人モ无ケリ  | AC        |  |
| 14 | 適マ         | 「適ニ」古本BC大 |  |
| 13 | 掌ニ有ケレハ     | 乙ABC      |  |
| 13 | 思食シケムカシ    | 乙ABC      | 「思シ食シケムカシ」実国「思ヒ食シケムカシ」底大               |
| 11 | 此思モ不懸      | B         | 「此ノ思ヒモ不懸ズ」諸大                           |
| 11 | ヨリ         | 諸大        |  |
| 10 | 氣色ハメハ      | 実国乙BC     |  |
| 8  | 竊殿ノ        | 諸         | 「乙本の「思シ」が原姿か。」                         |
| 8  | 思食サムニ      | AB        | 「思食テサムニ」C「思シ食サムニ」乙「思ヒ食サムニ」底実国（ヒにシ歟と傍書） |
| 7  | 微妙ノ        | 諸大        |  |

卷十九第十八話

- |      |           |       |                                  |
|------|-----------|-------|----------------------------------|
| 3    | 面白カリシ由ヲ   | 乙ABC  | 「面白カリツル由ヲ」底実国大                   |
| 3    | 不参ノ人々     | 乙ABC  |                                  |
| 3    | 夏ニ思ケル     | 乙ABC  | (乙ABCは事)                         |
| 4    | □ト        | 諸大    |                                  |
| 5    | 尼ト成セ給ニケリ  | 実国乙AC |                                  |
| 6    | 貴クメ       | 乙ABC  | (乙ABCはシテ)                        |
| 7    | 現世ニ       | 諸     |                                  |
| 7    | 過サセ給ヒマシカハ | 乙ABC  |                                  |
| 7    | 後世ハ       | ABC   |                                  |
| 9    | 三條天皇太后    | 乙B    |                                  |
| 14   | 挟ムト       | B     |                                  |
| 14   | 遣シタレハ     | 乙ABC  |                                  |
| 15   | 増賀コソハ     | 乙AB   |                                  |
| 15   | 成シ奉ラメ     | 諸     |                                  |
| 16   | 不思外ニ      | 乙ABC  | 「不思ザルニ外ニ」底実国大                    |
| 17   | 参ラム有ル     | 乙ABC  | 「古本かく作るは、「不思サルニ」と「不思サル外ニ」との混淆か。」 |
| 1001 | 吉也        | 乙ABC  |                                  |

- |    |         |                                       |
|----|---------|---------------------------------------|
| 3  | □ コソハ   | 諸大                                    |
| 3  | 恐レケレト   | 乙 A B                                 |
| 3  | 出ラレテ〔脱〕 | 此「出ラレテ、〔御几帳ノ許近ク参テ、出家ノ作法シテ、□長キ御髪ヲ搔出デ、〕 |
| 5  | □テ      | 古本乙 B A 本空白なし。「女房ハ」C                  |
| 5  | 糸□シ     | 諸大                                    |
| 5  | 挾畢奉テ    | 乙 A B C 「挾尋奉テ」実国「挾リ畢奉テ」底大             |
| 6  | 不心得     | 乙 A B C 「不心得待ズ」底実国大                   |
| 7  | 侍シカレ    | 乙 A B C (乙 A B C はトモ)                 |
| 9  | 奇恃ニ     | B C                                   |
| 9  | 汗出テ     | 諸「汗出デ、」大                              |
| 9  | 我ニモ非ス   | 乙 A B C                               |
| 11 | 利病ヲ仕レハ  | 乙 A B C                               |
| 12 | 思シ食有テ   | 乙 A B C                               |
| 12 | 候ヒツルト   | 諸大                                    |
| 13 | 簀子ニ築居テ  | 諸「簀子ヲ築居テ」底大「底本のヌは、或はニの古体「尔」の変か。」      |
| 13 | 脰ヲ散ヌ    | 乙 A B C                               |
| 14 | 其音ノ     | B C                                   |
| 14 | 御前ニテ    | 乙 A B                                 |
| 15 | 亘ヲソ     | 乙 A B C (乙 A B C は事)「事ヲリ」底実国大         |

	17	不被行夏ナレト	A B C (A B Cは事・トモ)
一〇二	2	□ テソ	諸大
	2	食物徴ク	乙 A B C
	2	毎日	乙 A B C
	3	嚮ニ	A B 「嚮ニ」古本C大「嚮ニ」乙
	5	女房	乙 A B C
	6	此ク	乙 A B C
	7	枯マリテ	諸 (B以外は木偏)
	9	比叡山ノ	乙 A B C
	10	其僧供ヲ儲ケ	B
	10	此宮ニ	B
	11	器苦ヲ	諸 (底実国は苦に共歟と傍書)
	12	无止ナル	乙 A B C
	13	御時	乙 A B C
	13	微妙ナリケルニ	諸「微妙ナリケルニ」底大
	13	女官ヲモ	乙 A B C
	13	産リ不給サリケレハ	乙 B
	15	懃ニ	乙 B



巻十九第十九話

一〇二	3	摘カ為ニ	乙ABC
4		谷迫テ	乙ABC
5		有ナレ	諸「有ナル」底大
5		何ニ行ニカ	乙ABC
5		思々ノ	乙AC
11		對面シタリ	諸大 諸本かく作る。
14		有シ時ニ	乙ABC
14		請ケ食テ過キ	乙ABC
16		氣色ハ	ABC
16		恐シ氣ニ成ヌ	諸大
16		難堪シク	乙ABC
17		木ノ僧ノ	乙ABC
17		囊座ニ	乙ABC (乙の座は変)
17		云随テ	乙ABC
一〇三		如ク者	乙ABC
1		帟額シタル	乙ABC
4		不思ヘ	乙ABC 「不思エス」実国 「不思エヌ」底大
5		出テヨリ	諸大 諸本かく作る。「リはトの誤りであろう。」
6		僧ノ	乙ABC

6 烈

古本乙B大「列」AC

9 囊ノ□

「壺ノ□」大 諸本欠字。

10 焰□メキ出ツ

底実乙AC（底はヌをメと朱訂）「焰□メキ出ツ」国大「焰□スキ出ツ」B

10 □リ

諸大

12 恐シキ者

ABC（Aの恐は間を訂せしもの）

13 俚リ臥タリ

乙AC

14 而ル間

諸大

14 開レハ

底実国

14 起上テ

BC

15 苦患ヲ

乙ABC

16 我死テ

B「我レ死テ」実国乙AC「死テ」底大

16 此所ニ来テ

ABC「此ノ所ニ来テ」乙「此所ニ来タテ」実国「此ノ所ニ来タチ」底「此ノ所ニ来タテ」大

17 返リ給ヒシト

底を実・国により訂。「キタリテの音便形キタツテの促音を表記しないもの。」

17 我レ

ABC

一〇四 2 我レ

乙ABC

卷十九第二十話

一〇四 7 □ト

諸大

8 □ノ□ト

諸大

- 10 昼寝シタル  
乙ABC (乙ABCは晝) 「晝寝シタリ」実国 「晝寝シタリニ」底大 (晝は変 晝に近し)  
「底本かく作るは、シタリとシタルニとの混淆か。」
- 11 有限り人  
乙ABC
- 13 非ヌ  
実国乙AC 「非ズ」底B大
- 16 取ヌレハ  
諸大
- 17 参ラセムト  
B 「参ラセテト」AC 「参ラセト」乙 「参テセヨト」底 「参ラセヨト」実国大
- 一〇五 4 別當ナレハ  
乙ABC 「別當ナルハ」底実国大
- 4 食ニコソ有ラメ  
諸
- 5 志モ  
諸 (底実国の志は変 士を主の変に作る)
- 7 慚愧ノ  
諸 (底の慚は変 旁を新に作る)
- 7 志ニテハ  
諸
- 卷十九第二十一話
- 一〇五 12 □ノ郡  
諸大
- 14 講師ナトヲシケリ  
諸大
- 15 家ニ取置タリケルヲ  
乙ABC
- 15 多ノ餅ヲ  
諸 (底の餅は変 金偏に作る)
- 16 □クラムヲ  
乙ABC 「□タラムヲ」底実国大
- 17 造テムケリ  
乙ABC 「造テムリ」底実国大

- 一〇六一 出来ヌラムト  
 乙ABC 「出来スラムト」底実国大
- 3 一壺  
 「二壺」大 茲以下底本半葉空白なるを、諸本により補。
- 3 逃ケ去ヌ  
 乙AB 「逃テ去ヌ」実国大 「逃去ヌ」C 底は脱
- 5 臨クニ  
 乙ABC 底は脱
- 5 愕キ去ヌ  
 乙ABC 底は脱
- 8 云  
 乙ABC 底は脱
- 8 男寄テ  
 乙AB 「男弃寄テ」C 「男ヲ寄テ」実国大 底は脱  
 「古本かく作る。ヲは、「男」の全訓すてがなと見られる。」
- 10 事ソト  
 乙ABC 底は脱
- 10 只  
 大 茲まで底本脱。
- 10 吞テムソト  
 乙ABC
- 10 此弃テ置タル  
 B
- 11 只ニテハ  
 諸大 「只ニモハ」底 諸により訂。
- 11 否不吞ト云ケルヲ  
 乙ABC
- 11 怖シ氣ニ否不吞ト  
 乙ABC 「怖シ氣ニ否不吞ジ」底実国（底はシの左にト朱補）「怖シ氣ナリの連用形  
 中止法と見る。この会話を承けるトの無いことに注意。（流布本にはあり）」。
- 12 弃置タル也トモ  
 乙ABC 大（Aはトの下、Cは也の下空白）「弃置タル也トモ」底実国 流布本によ  
 り訂。
- 15 死ナムニハ  
 乙ABC 「死ナムニ」底実国大
- 16 死ナム  
 ABC

- |          |         |  |
|----------|---------|--|
| 17       | 不似ス     | 古本乙B大「不似」AC  |
| 一〇七2     | 成ニケリ悔耻テ | 諸大（底はリの左下にトを朱傍）  |
| 5        | 然ハ      | 乙ABC「然ラハ」実国「然テハ」底大   |
| 5        | 罪ノ深キカ   | ABC「非ノ深キガ」底実国乙大（底は非の下に朱脱文符）  |
| 8        | 僧ケルヲ    | 「古本及び乙本かく作るは、「非」の下に「ズ罪」の二字を脱せるものか。「然テハ蛇ニハ（アラメ）」を総叙と解すれば脱文を予想せずに理解することができよう。」 |
| 卷十九第二十二話 |         |  |
| 一〇七12    | □□寺ノ    | 乙B   |
| 12       | □□ト云フ   | 乙B   |
| 13       | 遊ヒ戯レ    | 諸大   |
| 14       | 无カリケリ   | 乙ABC   |
| 16       | 云ヌレハト   | 乙ABC   |
| 17       | 麥入タル    | ABC  |
| 17       | 无カリケル   | 「麥入レタル」諸大「麦繩の略。」   |
| 一〇八1     | 然ル間亦ノ年  | 乙ABC「无カリケリ」底実国大  |
| 1        | 急キ見テ    | 乙ABC   |
| 2        | 損シタラムト  | 乙ABC   |
| 3        | 開ケル者    | 乙ABC   |

- 3 奇キヲ 乙ABC
- 3 前ニ 乙ABC
- 3 佗ノ人々モ B
- 4 流シテケリ 乙ABC 「流シテケル」底実国大
- 6 思ヒ遣レ AB
- 卷十九第二十三話
- 一〇八13 卷十九第十四話の  
二枚目にある
- 被用ニハ 乙ABC
- 16 開白殿モ 底国
- 17 此様マテコソ有ラメト 乙ABC
- 一〇九2 止叟无キ 乙ABC (乙ABCは事) 「止事キ」底実国大
- 3 微妙ニ 諸
- 6 第十四話の所から  
第二十三話の標目  
の次に戻る
- 一〇九6 「ノ中ニモ」く
- 一一〇1 「荒テ」まで「脱」

一一〇 一人呂サモ无ク

乙ABC (乙の呂は大字) 「人□ロサモ无ク」実国  
「人ホロサモ无ク」底大

諸本かく作るが、(ホは、古体<sup>7</sup>で示される。但し、実・国二本はホを欠き、流布本はホとロとを合して「呂」の如く作る)。

- 1 成ナムス
- 1 堂ニ壊テ
- 1 人モ被盜ナム
- 2 難堪ノ
- 2 採ツ、
- 3 止叟无ク
- 3 住人有シ
- 5 此ク懸キ
- 6 何チカハ
- 6 所ニテ
- 7 御時ヨリモ傳ハリ
- 7 微妙造営キ
- 7 住マ欲クコソ
- 8 弟子共
- 10 睨ヘハ

- 乙ABC
- 乙ABC
- 乙ABC
- 乙ABC
- 乙ABC
- 乙ABC (乙ABCは事)
- 乙ABC
- 乙ABC
- 乙ABC
- 乙ABC
- 乙ABC 「御時ヨリ傳ハクノ」底実国大  
「伝ハリ知ル所ナレバ」と同意。
- ABC
- 諸
- 乙ABC
- 古本乙大

- |       |        |                                 |
|-------|--------|---------------------------------|
| 10    | 不衰也ケリト | 乙 A C                           |
| 10    | 弟子共    | 乙 A B C                         |
| 11    | 住テ     | 流布本「住ムデ」大                       |
| 11    | 見ユル    | 国乙 A B C (Bのユルは変)               |
| 11    | 持行キ    | 乙 A B C                         |
| 12    | 里人モ    | 乙 A B C                         |
| 12    | 箋      | 「蔑」大                            |
| 13    | □ノ成持行ノ | B本以外の諸本の字体、草冠の代りに竹冠に作る。         |
| 14    | □行ナトシテ | 乙 A C 「□ノ成持行ク」 B 「□ク成り持行ク」底実国大  |
| 15    | 前裁モ    | 乙 A B 「□ナントシテ」 C 「□ニ行ナドシテ」底実国大  |
| 15    | 立部モ    | 乙 A B C 「前裁モ」底実国大               |
| 15    | 荒ヌレハ   | 「古本かく作るが、流布本の「裁」が正字。」           |
| 15    | 悲ク思フ   | 乙 A B C 「立部□モ」底実国大              |
| 16    | 一人ヲ    | 諸「荒メレバ」底大                       |
| 17    | 露不顧ス   | 実乙 A B C 「悲思フ」国「悲キ思フ」底大(テにクと朱傍) |
| 17    | 訪フ     | 乙 A B C 「二人ソ」実国「二人リ」底大          |
| 11-12 | 有ル夏ハ   | 「リは「二人」の捨てがな。」                  |
|       |        | 実国乙 B                           |
|       |        | 乙 A B C                         |
|       |        | 諸(諸は事)「有ル事ト」底大 「トは「事」の捨てがな。」    |



卷十九第二十四話

3 倒畢ヌレハ 乙ABC  
 6 死スル也ケリ 流布本底大「死ヌル也ケリ」古本

一一一 〇ト云 〔〇ト云フ〕大 諸本欠字。

11 〇僧也 諸大

11 祈禱スト 諸

13 安陪晴明ト云テ ABC (Bの陪は倍、Cの晴は清)

13 道ニ付テ 諸

14 助テ 底乙AC

15 祈禱スト云ヘヒ ABC (ABCはトモ)

16 住シテ 底美国乙B Cは脱

一一二 1 弟子共 乙AB Cは脱

1 弃ムト 諸 Cは脱

1 命ヲ全ク 乙AB Cは脱

2 代ラム思フ心ノ 乙AB Cは脱

4 壺居住ニテ 乙ABC 「壺屋住マテ」底(マをにと朱訂)「壺屋住ニテ」美国大

5 此ヨリ 乙ABC

5 死タラム事ヲ 諸

6 彼ノ都状ニ 乙ABC

卷十九第二十五話

- 8 清明 底B
- 10 代ノ僧 底ABC大「代ノ僧ハ」古本 乙は脱
- 10 物具ナト 乙ABC
- 10 拈タ、 諸大
- 11 夏ヲ 乙ABC (乙ABCは事)
- 14 合タル 諸大
- 15 此ヲ聞テ 乙ABC
- 16 命ヲ存シメル也ケリ 乙ABC
- 17 貴ヒケリ 諸大
- 17 此僧哀テ 乙AC
- 5 敬實父 諸(底の敬は変 敏に近し)
- 6 院ノ 諸大
- 7 空陰テ夕立ス 実国乙B「空陰テ夕立ヌ」底大「空陰于夕立ス」A「空陰チ夕立ス」C
- 8 官掌 乙ABC「官掌」底実国大
- 8 院ノ 諸大 諸本欠字。
- 10 行クヲ 乙ABC「行クカ」底実大
- 12 院ノト云フ 諸大
- 13 人頭ハレテモ 「人頭ハレテモ」諸大

	13	有ケル	乙 A B C
	14	手ヲ取テ	乙 A B C
	17	祖モ非スト	乙 A B C
一一四	1	立ケリ	諸大
	2	隠ス	諸大「隠ヌ」B
	3	取カシト	乙 A B C
	6	何ニカト	乙 A B C
	7	此事	B
	8	給ヒケリ	B「給ヒテケリ」諸大
	9	云ケル様ハ	A B C「云ケル様」底実国乙大
	11	云ヘ氏	諸大（諸大はトモ）
卷十九第二十六話			
一一四	17	□ニテ	諸大
	17	上手ニテ	「上手ニテ」古本大「ウは上の捨てがな。」
	17	射ル者	諸大
一一五	1	射□シツ	諸大
	2	極ク愛スル子	乙 A B C「我が極ク愛スル子」実国大「我カ極ノ愛ス子」底
	2	的ヲツルヲ見テ	A B C「的ウツルヲ見テ」乙「的ヲ□ツルヲ見テ」実国大
	4	何ニ為ルト	乙 A B C

- |    |            |  |
|----|------------|--|
| 4  | 見遣テ        | 諸大   |
| 5  | □ノ         | 諸大   |
| 5  | 抜タル取テ      | B  |
| 6  | 逃ムニハ追レ可付クモ | 乙ABC   |
| 6  | 逃ヌヘキニ      | A B  |
| 7  | 背ヲ         | 諸(底実国は変 比十月に作る、底は脊と朱傍)   |
| 9  | 将ノ庭ニメ      | 乙ABC (乙ABCはシテ)   |
| 9  | 臥シ九ヒテ      | 底  |
| 11 | 公助ヲ召テ      | 乙ABC   |
| 11 | □タルソト      | 諸大   |
| 12 | 罷餘タレハ      | 乙ABC   |
| 12 | 逃ム追候ハム程    | B 「逃ムヲ追候ハム程」乙AC 「逃ムヲ追タル候ハム程」底実国大                               |
| 13 | 泣ニケリ       | 大  |
| 14 | 者テ         | 乙ABC   |
| 14 | □ノ的□タルヲ    | 諸大   |
| 14 | □ノ方ノ       | 諸大   |
| 15 | 大将共ノ       | 大  |
| 15 | 訴ヘ有ハ       | 実国A 「訴ハ有ハ」底大(上のハをへと朱訂) 「訴ヘ有ハ」<br>乙BC<br>古本及びA本かく作るは、「訴」の異体字の変。 |

- 16 問レニ 乙ABC  
 16 不被下ヌ 諸大  
 17 也ト〔脱〕我ヲ 「也ト〔テ止ニケリ。後ニ公助ガ云ケルハ、「父ノ我レヲ打ツ、尤モ理也。此レ、」我ヲ」大  
 乙ABC  
 116 打ニ非ス 乙ABC  
 2 蒙テムト云ケレハ 乙ABC 「蒙テト云ヒケレハ」底実国大  
 「古本かく作る。このテはテムの意。」  
 ABC (ABCは事)
- 3 不候又亥也
- 卷十九第二十七話  
 116 10 □ノ比 諸大  
 10 上リ 乙ABC  
 10 五六歳計ニ B  
 13 流テ 流布本「流シテ」古本大  
 14 游ク搔テ 底実国  
 15 片手ヲ以テ 乙B 「片手以テ」AC 「片手ヲ以テハ」底実国大  
 16 溺レテ 乙ABC 「溺ヒテ」底実国大  
 117 2 腹帳タリケレハ B  
 2 躑ニ助クルニ 乙AB  
 2 奇異キ 乙ABC 「弃異キ」底実国大

3	皇ト	乙ABC
3	可死ヲ何ト思ヒテ	乙ABC
4	母ヲ	乙ABC
5	歎キ悲ム事	諸「歎テ悲ム事」底大
6	助タル事	乙ABC
6	佛哀トハ	乙ABC
6	其子ヲ	乙ABC
卷十九第二十八話		
一一七	14 宇治郡ニ	「宇治ノ郡ニ」大「宇陀」C
15	死ヌル	実国乙AB「死スル」底C
一一八	1 思ヒ行テ	ABC
3	六波羅蜜ノ	実国AB
5	遙山ノ	乙ABC
9	猛キ焰ヲ	乙ABC
10	躰ノ无	乙ABC
12	免レテ	諸「免シテ」底大
卷十九第二十九話		
一一九	6 太宰ノ師ニ	AB Cは脱

7	失テムト	諸大
7	鐘ノ	流布本「鍾ノ」古本大
8	□タル	古本乙大
8	暫計リ	★「暫許リ」諸大（底の許は変 旁を手に作る）
11	何ニテカ	乙 A B
13	眷属ラ夜終	A
13	何ニシカハ	乙 A B 「何ニシニカハ」底美国大
14	海ノ面ヲ	「海ノ面□□トシテ」古本乙大
14	鷗ト云鳥	乙 A B
15	□テ	諸大
17	御シマスト云テ	諸
一二〇	泣キスル	流布本底大「泣キヌル」古本
1	奇異ト思ヒ乍ラ	乙 A B 「奇異トハ思ヒ乍ラ」底美国大
1	内ハ心ヲ	乙 A B
3	不寝リケレハ	乙 A B
3	寝入ケレハ	B
4	出テ我ハ	乙 A B
4	指出タルハ	諸「指出タルハ」底大
5	人言ハク	乙 A 「人言ハク」 B 「人ノ言バノ」底美国大
5	忘サセ給ヒニケルカ	乙 A B 「給ヒニケルヤ」底美国大（底乙の忘は忌に近し、底は正字を朱傍）

- |         |         |                        |
|---------|---------|------------------------|
| 6       | 成り      | 流布本「成テ」古本大             |
| 8       | 高欄ヲ     | 諸(底は欄敷と朱傍)             |
| 12      | 隣レ也     | 乙A B 「隣レ也」底実国大         |
| 14      | 行ツ、     | 乙A B                   |
| 15      | 何トモ     | 乙A B                   |
| 一二一     | 1 僧都コソ  | 乙A B                   |
| 2       | 人ノ助ケ    | 乙A B                   |
| 2       | 糸口者ニハ   | 乙A B                   |
| 2       | 佛菩薩ナトニテ | 乙A B                   |
| 4       | 捻持寺ト    | 乙A B                   |
| 4       | 人也ト     | 乙A B Cは脱               |
| 卷十九第三十話 |         |                        |
| 一二一     | 7 佰济弘济  | 底実国 B (济の下に僧イと補入)      |
| 9       | 行ニケル    | 乙A B C                 |
| 16      | 京ニ上ク    | 実国A B C 「京ニ上」乙「京ニ上テ」底大 |
| 17      | 亀ヲ      | 乙A B C 「龜四ヲ」底実国大       |
| 一二二     | 1 入レツ   | 諸「入レリ」底大               |
| 3       | 投入レツ    | 諸「投入レ」底大               |
| 6       | 石ノ様ナル   | 乙A B C                 |



	6	嗜タレハ	乙B
	7	海辺也シヲ見ルニ	ABC (ABCは邊)
	9	幾ク程ニ	ABC
	10	報ストテ	諸大
	10	助ケル也ケリト	乙ABC
	12	被奪ルハ	底実国B
	13	力ハ	諸大
	14	弘済ヲ	諸「弘グ済ク」底大(クに朱抹消符あるも採らず)
			「底本のグは「弘」の全訓捨てがな。」
	14	奇異思ヘテ	乙ABC
	14	恐レ迷タル	実国乙AC大「恐レ迷タルニ」B「恐ル迷タル」底
			「底本「恐ル」に作れるを諸本によりて訂。」
	16	思ケルニ弘済	諸大「恩ケルニ弘洛」底
			「底本「恩洛」に作れるを諸本によりて訂。」
	16	止ヌルハ	乙ABC
一三三	1	利益	乙AC (乙ACはシテ)
		此ノ朝ニテ	乙ABC
卷十九第三十一話			
一二三	6	元興寺ニ住ケル	AB「元興寺ニソ住ケル」実国乙C「元興寺ニ住ケル」底大

卷十九第三十二話

一二五 4 社ニ

8 惠満力宗ニ

諸（実国の宗は家の草体に近し、乙C以外は家<sup>敷</sup>と傍書）

8 通フ程ニ

諸「通方程ニ」底大

8 返トテ

諸

8 有ニ

乙ABC

9 哀テ心ヲ

乙ABC

11 此レヲ聞

BC

11 房ヲ山門ニ至テ

乙ABC

13 行クニ

諸大 主格は童子。

14 食ノ間ニ

諸大

16 其時

B

17 此へ何ナル事ソト

乙ABC

17 商ヒセムト為ニ

乙ABC 「商ナヒセムカ為ニ」実国「商ナヒセム為ニ」底大

一二四 1 通シ時ニ

諸大

2 語ル

ABC 「母ニ語ル」底実国乙大

3 心ヲ重バ

乙ABC (乙ABCはシテ)

9 不知リキ

乙ABC

乙ABC 「粒ニ」底（粒と朱訂）「粒ニ」実国大  
「粒」は「祇」の異体字。

	4	□ 郡ニ	諸大
	4	道辺	乙ABC (乙ABCは邊)
	8	浮カレ	諸 (実国はシイと傍書) 「浮カシ」底大
	9	朔幣ナトモ	諸 「朔幣ナドモ」底大 (朔は変 朔イと朱傍)
	9	罷成タル也	「弊」の正字は「幣」。
	13	此様ニ	ABC
	13	被崇ハ	底実国 B
	14	夢ナトモ	乙ABC 「被崇レハ」実国 「被宗レバ」底大
	15	京上シメ	乙ABC
一二六	1	参レ参シト	乙ABC
	2	庄車ノ	乙B (乙の庄は変)
	2	艶ニ	乙ABC
	2	无氣也	諸大
	4	此ニ参レト	乙ABC 「此参レト」底実国大
	6	知タリヤ否ヤト	乙ABC
	12	下ナル程ニ	諸 「下ケルニ程ニ」底大
15		神モ	「底本のみかく作るは推敲過程の露呈とみるべきか。」
一二七	3	成リ給ヘテハ	諸 (底は変 旁を由に作る)
			底実国 B 大 「成リ給ヘラバ」乙AC

卷十九第三十三話

- 3 微妙カルヘキ事カナト 国乙ABC 「微妙カルヘキ事カナ、ト」実「微妙ナルベキ事カナ、ド」底大
- 9 恩ノ報スルヲハ 乙ABC
- 9 語り傳ヘタルトヤ 底ABC

一二七 13 二条ヨリ

乙ABC

- 14 木 大「森」AC 「森」の分字の譌か。

- 15 讀奉テ 乙ABC

- 15 部ニ 乙ABC

- 16 不見メ 乙ABC

- 17 極テ喜ク 乙ABC

- 一二八 1 我レ 乙AB

- 1 事ヤハ 乙ABC

- 2 云ニカト思フ程ニ 乙ABC 「云ニヤト恠フ思フ程ニ」底実国大

- 3 侍ル也ト 乙ABC 「侍ト也ト」底実国大

- 4 御ス神ノ 乙ABC

- 7 昇シ後ニ昇ル 乙ABC

- 8 □ヲ将来テ 「□将来テ」大 諸本欠字。

- 9 程ニ「脱」此ノ 「程ニ「努々此レ不臨終フナ」ト云置テ、内ノ方へ入ヌ。僧、此レヲ待ツ程ニ、」此

ノ」大

14 物見

乙ABC

15 菖蒲共

乙ABC 「菖蒲共」底実国大「蒲」と「菖」は同字。

16 解除メル

乙ABC

16 七月七日〔以下缺〕

大

〔七月七日〕の後、二行と

半枚空白

巻十九第三十四話

標目なし

〔比叡山天狗報助僧恩語第卅四〕大

巻十九第三十四話欠

諸欠

巻十九第三十五話

一二九 7

□弁源ノ

諸大

〔□ト云フ〕大 諸本欠字。

10 取ツメレハ

ABC 「取ツメレ」乙「取ツメルハ」底実国大

13 永クノ名也

諸（底実のクノは変 ノクの如く書けり）

14 弁侍久ト

乙ABC 「弁侍久□ト」底実国大

15 欲クスレハ

諸大

15 公ケ御言ヲ

乙ABC

- 17 有テムヤ  
 一三〇 1 此レヲ聞テ此レ  
 2 速ニ返参ト  
 3 去ヌレハ  
 5 強メ  
 5 有ルニヤト  
 6 突折テ  
 7 枯ナル径者ノ  
 9 擲メテ  
 9 従者ヲ以テ  
 10 仰セノ如ク  
 10 道理トヤ  
 11 御衣櫃ヲ  
 11 免サシ  
 11 追ヒ持ケリ

実乙 A B 「有テムヤ」 国 「有ラムヤ」 C 「有ナムヤ」 底大

底実国

乙 A B

A B C 「去ヌレニ」 乙 「去ヌルニ」 底実国大

乙 A B C 「強メ」 底実国大

諸大

乙 A B C

★ 「枯ケル径者ノ」 B 「枯ナル径者ノ」 乙 A C 「枯ナル径者ノ」 底実国大

「諸本かく作る。枯が「拈」の譌とするならば、シタタカに借りたものか。古本「徑者」、流布本「径者」と作るが、何れにしても通じ難い。同一語かと思われるものが、「従者」と見える。」

諸大

諸 (底実国の擲は木偏)

諸

乙 A B C 「仰セ如クニ」 底実国大

諸 「道理トヤ」 底大 「ヲは間投助詞。」

諸

乙 A B C 「免スサジ」 底実国大

「古本かく作るが、原姿は「免スマジ」(マは古体「ニ」か)。

乙 A C 「追モ持ケリ」 B 「追ヒ持行ケリ」 底実国大

	12	行ヒ候ツルニ	諸	古本かく作るが、「リ」は「ト」の譌か。
	12	強ノ	諸大	
	12	思ヒツラム	乙ABC	
	16	躰ヲ	諸(底実国は変 舟偏に作る)	
	16	糸恐シ氣色	諸(色に底は也歟と朱傍)	
	17	非スニ	底流布本「非ヲニ」古本	
	17	来タルハ	乙ABC 「来タレバ」底実国大	
一三二	2	出テハ	諸大	
	2	貞ヲ	乙ABC	
	3	散々ニ	「散々ニ」乙ABC	
	3	折リ碎テ	乙ABC 「折碎テ」実国「折碎ニ」底大	
	3	免牝	乙ABC (乙ABCはトモ)	
	4	臥セシハ	乙ABC	
	6	罪ヲ得ヌヘケレハ	乙ABC 「罪ノ得ヌベケレバ」底実国大	
	8	如此ク	乙ABC	
卷十九第三十六話				
一三二	17	盗人ニ敏スト	底実国AB	
一三二	2	此兵ノ来レハ	B	

卷十九第三十七話

4 免シメ

乙ABC

4 生レム

諸「出レム」底大

5 念佛ヲ

乙ABC

7 此ク自然ヲ

乙B「此ク自然ニ」AC「此ゾ自然ヲ」(ソにクイと傍書)底実国大

一三二 東塔ノ

諸大

12 □内供ト

諸大

12 屋ノ上ニ

乙ABC

13 念誦ヲシテ

乙ABC「念誦フシテ」底実国大

「古本かく作るは、「誦」の字音をシウと書いたものの譌であろう。従って、捨てがなとなる。」

13 此ク見ケル程ニ

乙AB

13 眠タリケレハ

諸大

16 見上タルニ

乙ABC

一三三 漱テ

乙ABC

6 物食ル間

流布本「物食フル間」古本大

7 除テ

「除テハ」大 B本を除く諸本かく作る。

7 内供□夢モ

乙ABC(二字分空白)「内供夢ニハ」底実国大(供の下 約半字分空白)



8 念佛申サハ 乙ABC  
 10 内供人ニ 乙ABC  
 11 者也トソ云ケル 乙ABC

巻十九第三十八話

一三四 3 大鐘 流布本「大鍾」古本乙大

5 棟 乙ABC 「棟」底美国大（棟イと傍書）

7 寝入タル程ト也 乙AB

7 不損リケリ 乙ABC 「不損サケケリ」底（右のケにレと朱傍）「不損ザリケリ」美国大 「底本か

く作るが、古本により訂。」

巻十九第三十九話

一三四 12 □ト云 〔□ト云フ〕大 諸本欠字。

12 □ト □ト 〔□トゾ〕大 諸本欠字。

15 呼ケレハ 諸「呼ケルハ」底大

15 主ノ 諸

15 持齊ニ有ケレハ 乙ABC

16 行ニケリ 諸

16 半作サル 乙ABC

16 父共ナト 底美国（底は文と朱傍）

卷十九第四十話

17 侶レ臥テ A B C大「侶シ臥テ」実国「促レ臥テ」乙「位レ臥テ」底（侶と朱傍）  
一三五 1 頭モ骨モ 乙 A B C

2 打チ被□ニケリ 実国乙 A B 「打チ被□ケリ」 C 「打テ被□ニケリ」底大  
2 聊ニ 諸大

3 持テルカ 乙 A B C

4 此レ奇異ノ 乙 A B C

5 戒ヲ持チ觀世音 乙 A B C

6 目 乙 A B C

一三五 11 諍ヲシケリ 乙 A B C

13 其方へ B 「其ノ方へ」乙 A C 「其ノ方へニ」底实国大

「カタへは「傍」の意の名詞か。」

14 風ニ被濫テ 乙 A B C

14 京童部ハ谷ヲ見下シテ 实国乙 B

16 向ケル時御堂ノ方ニ 乙 A B C 「返向ケル時御堂ノ方ニ向テ」底（返に立と

向ケル時御堂ノ方ニ 朱傍）「立向ケル時御堂ノ方ニ向テ」实国大

向テ

卷十九第四十一話

一三六 5 何シケルニカ

流布本「何シケルヤ」古本

10 語り傳へタルトヤ

A B C

卷十九第四十二話

一三六 14 搦合ニ

乙 A B C (彦 A の檐は変「檐命セニ」底「檐合セニ」実国大「底本「命」に作れる

を、諸本によりて訂。)

15 柱ヲ

乙 A B C

15 繼ツ

古本乙 B 大「繼テ」A C

16 其前ノ

B

16 或ハ

諸(実国の或は異体、底の内部はコに近し)

17 居重リニケレハ

乙 A B C

17 傾ケル

A B C

一三七 1 柱□テ

古本乙 B 大

1 他ノ柱共モ

諸「他ノ柱共ニ」底大

1 被投テ

諸(底の投は変 木偏に作る)

3 谷方様ニ俄ニ

A B C

4 或柱

乙 A B C

4 桁

諸

4 打チ摧クルモ

乙 A C 大「被打チ摧クルモ」底実「被打チ摧タルモ」国「打チ摧タルモ」B

卷十九第四十三話

- 4 子ヲ抱タル
- 4 母ノ頭ト
- 5 被切テ
- 5 身軀別々ニ成
- 6 童二人ソ
- 12 形チ美麗ニ
- 13 長ヒテハ
- 16 門ノ内テ
- 17 有カ
- 一三八 1 貧クテ
- 2 弃テムト
- 2 □非キ也
- 3 我レ
- 4 吸スレハ
- 5 侘ヒケルマヽニ
- 5 張シメ給ヘト

乙ABC

乙ABC

乙ABC 「□被切テ」底実国大

「身軀別々ニ成」ABC

乙AB 「童二人ソ」C 「小童二人ソ」実「小童二人ソ」底国大

乙ABC 「形チ美麗ニ」底実国大

乙ABC 「長エキハ」国「長ビキハ」底実大

乙ABC

諸大

乙ABC

乙ABC 「奇テムト」底実国大

乙ABC 「□非キ也」底実国大

乙ABC

諸大「吸ユレバ」底（ユをスト朱訂）

乙AB

乙ABC 「張ヌ給ヘ」底実国大（底はヌにセ歟と朱傍）

「古本かく作るが、ヌはメの古体の変であろう。ハラシメとよむべきもの。」

卷十九第四十四話

13	无下ノ下衆ナトニハ	乙 A B C
12	此門ノ下ニ	B 「此ノ門ノ下ニ」 A 「此ノ門ノ下ニ」 乙 C 「此ノ門ノ下」 実国 「此ノ門ノ下」 底大
15	奇異ク見	B
15	被養ニケムト	大 「被食ニケムト」 A C
16	狗ニ	諸
16	昨日ヨリハ□□テ	底実国大 「昨日ヨリハテ」 乙 A C
16	不泣テ	諸大 「不泣キ」 底
17	此ヲ見テ	乙 A B C
一三九	思フニ	B 「思ニ」 乙 A C 「思テ」 実国 「思フ」 底大
3	□ノ程	諸大
3	狗多ク有レトモ	乙 A B C
5	狗	乙 A B C
5	他ノ狗共	乙 A B C
6	只寄ニ寄ルニ	乙 A B C
11	将行ニケルニヤト	諸大
14	可有ニモ	乙 A B C

## おわりに

『今昔物語』巻十九の本文の異同を見ると、巻十三で見受けられた傾向と同様に、古態を残すとされる東大本甲、実践女子大本、國學院大本と一致する箇所は多くないという結果が得られた一方、流布本系諸本（内閣文庫本A B C、東大本乙）と一致する箇所が多くみられた。また、これまでの巻では、内閣文庫本Bの表現が彦根城博物館本の表現と一致する箇所が多く、空白などの形式と同じ傾向にあったが、巻十九の場合もそれは同様であった。

本巻で明らかになったのは、古態本における捨て仮名や送り仮名などが流布本では、異なる形に変化する傾向にあり、それが流布本系と古態本系の表現を分けるメルクマールになっていることである。例えば、第一話では、実践女子大本、國學院大本において「右近」の右上に付された送り仮名「ニテ」が流布本系では「右」を脱して送り仮名を本文に入れて「ニテ近」の形となっている。東大本甲には、送り仮名そのものがないので、ここでは、流布本系が実践女子大本、國學院大本の系統の本から書き写していることを示していよう。また、第五話では、実践女子大本、國學院大本、東大本甲では、「心□ニシテ」となっている部分、流布本系では、「心□マヒテ」となっており、見間違いの生じやすい字形間の写し間違いではあるが、古本系と流布本系が綺麗に分かれていることがみてとれ、ここからは、古態本系と流布本系の間に見間違いの生じやすい字形の本が介在していることが推測される。このような傾向は、巻十九において多く見受けられる。第五話において古態本系の表記「過ケル間ニ」が流布本系では「過ケル間ニ」になり、古態本系の表記「宣フカトテコソ」が流布本系では「宣フカトコソ」になっている。また、他に第五話では、実践女子大本、國學院大本において「不值シシテ」と表記されたものが流布本系では「不值シテ」となっており、東大本甲では「不值ズシテハ」と表記されていることから、東大本甲の表記から実践女子大本、國學院大本、流布本の順に送り仮名が縮められていることがわかる。第七話では、実践女子大本、國學院大本の表記「有テ痛ヤト云ツ」が流布本系では

「有<sub>レ</sub>痛ヤト云ツ」に変わるが、東大本甲は「有<sub>テ</sub>痛ナド云ク」というようにかなり異なる表記となっている。第九話では、実践女子大本、國學院大本の表記「此レヲ恠<sub>シ</sub>テ」が流布本系では「此レヲ恠<sub>テ</sub>」と送り仮名を一字落としているが、東大本甲では、「此レヲ恠<sub>シ</sub>キ」と表記しており、やはり、かなり異なる形になっている。第十三話においては、古態本系では「讀<sub>タリ</sub>レバ」となっているものが流布本系では「讀<sub>タレ</sub>ハ」とすっきりした形に校訂されている。第十七話においても古態本系では「醒<sub>サ</sub>セ給<sub>ハリ</sub>ケレハ」と表記されるが、流布本系では「醒<sub>サ</sub>セ給<sub>ケレ</sub>ハ」と送り仮名が落とされている。また、同じく十七話では、古態本系で「面<sub>白カリツル</sub>由<sub>ヲ</sub>」としていたものが流布本系では「面<sub>白カリシ</sub>由<sub>ヲ</sub>」となっており、助動詞が変化している。第三十三話では、古態本系が「云<sub>ニ</sub>ヤト恠<sub>ヲ</sub>思<sub>フ</sub>程<sub>ニ</sub>」と表記するのに対し、流布本系では揃って「云<sub>ニ</sub>カト思<sub>フ</sub>程<sub>ニ</sub>」に表記が変化している。

このように、諸本間の振り仮名等の変化に一定の規則性はないものの、東大本甲からその他の古態本系へ、そこから流布本系へと仮名の変化の様相は見てとることができる。それぞれの系統の本が同じ表記を有しているのは、巻十九の場合、古態本系と流布本系の間介在する本が一系統であったことを示しているだろう。巻十七では、東大本甲、東大本乙、内閣文庫本A Cの流れについて言及したが、巻十九の振り仮名、送り仮名に関しては、そうした流れは見受けられない。ここにおいて、巻ごとの緻密な分析が今後必要であることが再認識されることとなった。

ひき続き、他の巻においても、そうした表記の意識の在り方について検討を加えていき、彦根城博物館本の諸本における位置づけを明らかとしたい。

## 注

- (1) 中根「未紹介本『今昔物語』(彦根博物館所蔵)についての一考察」(『愛知県立大学説林』53号 二〇〇五年三月)
- (2) 中根「彦根城博物館所蔵『今昔物語』巻一の本文の位置づけ」(『愛知県立大学文学部論集』54号 二〇〇六年三月)
- (3) 中根「彦根城博物館所蔵『今昔物語』巻二の本文の位置づけ」(『愛知県立大学文学部論集』55号 二〇〇七年三月)

- (4) 中根「彦根城博物館所蔵『今昔物語』巻五の本文の位置づけ」(『愛知県立大学日本文化学部論集』1号 二〇一〇年三月)、中根「彦根城博物館所蔵『今昔物語』巻七の本文の位置づけ」(『愛知県立大学日本文化学部論集』3号 二〇一二年三月)、中根「彦根城博物館所蔵『今昔物語』巻九の本文の位置づけ」(『愛知県立大学日本文化学部論集』4号 二〇一三年三月)
- (5) 中根「彦根城博物館所蔵『今昔物語』巻三の本文の位置づけ」(『愛知県立大学文学部論集』56号 二〇〇八年三月)、中根「彦根城博物館所蔵『今昔物語』巻六の本文の位置づけ」(『愛知県立大学日本文化学部論集』2号 二〇一一年三月)、中根「彦根城博物館所蔵『今昔物語』巻十の本文の位置づけ」(『愛知県立大学日本文化学部論集』5号 二〇一四年三月)
- (6) 中根「彦根城博物館所蔵『今昔物語』巻四の本文の位置づけ」(『愛知県立大学文学部論集』57号 二〇〇九年三月)
- (7) 中根「彦根城博物館所蔵『今昔物語』巻十一の本文の位置づけ」(『愛知県立大学日本文化学部論集』6号 二〇一五年三月)
- (8) 中根「彦根城博物館所蔵『今昔物語』巻十二の本文の位置づけ」(『愛知県立大学日本文化学部論集』7号 二〇一六年三月)
- (9) 中根「彦根城博物館所蔵『今昔物語』巻十三の本文の位置づけ」(『愛知県立大学日本文化学部論集』8号 二〇一七年三月)
- (10) 中根「彦根城博物館所蔵『今昔物語』巻十四の本文の位置づけ」(『愛知県立大学日本文化学部論集』9号 二〇一八年三月)
- (11) 中根「彦根城博物館所蔵『今昔物語』巻十五の本文の位置づけ」(『愛知県立大学日本文化学部論集』10号 二〇一九年三月)
- (12) 中根「彦根城博物館所蔵『今昔物語』巻十六の本文の位置づけ」(『愛知県立大学日本文化学部論集』11号 二〇二〇年三月)
- (13) 中根「彦根城博物館所蔵『今昔物語』巻十七の本文の位置づけ」(『愛知県立大学日本文化学部論集』12号 二〇二一年三月)
- (14) (11)に同じ。
- (15) (12)に同じ。
- (16) (9)に同じ。
- (17) (1)に同じ。